

避難に必要な時間の把握

施設の全員で考えてみよう！

■各施設において、どの行動が必要か、それにどれくらいの時間がかかるか考えて下さい。



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分



()分

⇒避難訓練を繰り返すことにより、かかる時間を短縮していきましょう。

■避難における課題把握

■以下の項目について、自分の施設は対応可能かをチェックしてみましょう。

■自施設の水害時における対応能力を分析し、どのような訓練が必要であるかを踏まえた訓練計画を作成することが重要です。

【十分対応出来る:○】

【課題があるかもしれない:△】

対応段階	チェック項目	対応の可否 (○/△を記入)
初動訓練	①職員参集はできますか (平日、休日・夜間)	
	②責任者への報告や職員への指示はできますか	
避難準備 訓練	③資器材・備蓄品等の確保できていますか	
	④避難時の服装準備、移動手段の準備 (車いす・担架、自動車等の確保)はできますか	
非常体制 訓練	⑤施設内の避難誘導・移動はできますか	
	⑥安全な避難先まで移動できますか	

△の項目は、改善の余地が大きい部分と考えられます

⇒できる訓練から実施してみましょう。

【選択編】

チェックリスト① 初動【職員参集（平日、休日・夜間）】

【訓練内容】：職員参集または待機を判断・指示し、速やかに警戒体制等を確保するために連絡網を活用して適切・迅速な参集訓練を行う。（地震や火災訓練用の連絡網を活用可能）

訓練のポイント

■洪水時は決められた全職員が出勤できるとは限らないため、施設に到着するまでの時間や職員の家庭の事情等を予想して訓練することが重要です。

実施の有無	訓練項目	訓練目標 記載例を参考に、各施設で設定して下さい	担当者	結果
☐	不在（休暇中等）職員に連絡し、応援を要請する ・日中に、夜間・休日を想定した訓練を行う ・緊急連絡網を複数パターン用意する	（例）休暇中等の職員に〇分以内に連絡が取れる （様式9の確認）		
☐	全職員に連絡をまわす ・SNSグループを活用する ・緊急連絡網を複数パターン用意する	（例）休日に、連絡が職員全員に途切れなくまわる （様式9の確認）		
☐				

【訓練時における課題や気づき】

チェックリスト① 初動【職員参集（平日、休日・夜間）】

【ヒント集】

- ・職員の入れ替わりもあるため、緊急連絡網を毎年見直しする。
- ・職員の出勤手段、通勤時間及び連絡方法を把握し、経験者や役職者、機動力のある人や近くに住んでいる等で来所しやすい職員のリストを作成する。
- ・職員緊急連絡先を印刷して日頃から携帯する。
- ・緊急連絡先は、自宅ではなく携帯番号で登録する。
- ・緊急連絡網を複数パターン用意する。
- ・緊急連絡網として、SNSのグループ機能を活用する。
- ・悪天候の予想時は、所長、リーダー等が施設に泊まることで対応する。
- ・入居者に対して宿直員数が少ない場合、近隣の経営者宅に連絡するルールとする。
- ・災害時に自分や家族と入居者の優先対応に関するルールづくりをする。
- ・日中に、夜間を想定した電話連絡を訓練する。
- ・夜間の少ないスタッフでの避難対応や他スタッフとの連携を訓練する。
- ・訓練で、あえて応答しない職員を設定して、連絡がまわるかどうかを訓練する。

【選択編】

チェックリスト② 初動【情報伝達・指示】

【訓練内容】: 気象情報等の状況にあわせて、各役割内容の確認・指示・対応を行う。

訓練のポイント

- 初動で必要となる取組や体制・役割を理解する。(計画内容を全従業員で理解する⇒職員教育)
- 管理権限者(代行者)は、報告された情報の職員への伝達と指示する行動をイメージする。

実施の有無	訓練項目	訓練目標 記載例を参考に、各施設で設定して下さい	担当者	結果
☐	初動体制(職員待機やリーダー等)を決定する ・一人複数役をこなせるように訓練時にローテーションする。	(例) 責任者は参集状況に応じた役割分担を判断し、職員に指示する		
☐	通所利用者や外来診療の受入を判断する ・保護者等への連網を活用し、事前連絡を行う。	(例) 責任者は通所利用者や外来受入の可否を判断し、職員に対応を指示する		
☐	早期避難対応の要否を判断する ・重篤者など避難に時間を要する利用者の早めの対応を行う。	(例) 早期避難が必要な利用者(体調管理に特に留意が必要な利用者等)の有無を判断し、適切な対応を指示する		
☐	館内放送の確認 ・トイレ、風呂など、管内放送が聞こえない場所がないか確認する。	(例) 施設館内放送の動作確認(施設内の聞こえ方に差がないことを確認)		
☐				

【訓練時における課題や気づき】

チェックリスト② 初動【情報伝達・指示】

【ヒント集】

- ・職員のネームプレートに災害時の役割を明記する。
- ・一人数役をこなせるように、役割分担を訓練時にローテーションする。
- ・避難判断時に家庭等の協力を得るための協議や説明を実施する。（下記事例参照）
- ・可能な場合、入所者を各家庭に一時帰宅させる。
- ・保護者等への一斉メール配信サービスを利用する。
- ・避難先の情報・写真をご家族へ事前に提供する。
- ・利用者の家族と連絡がとれない場合のため、利用者宅の避難場所を整理する。
- ・緊急連絡手段として、トランシーバーを準備する。
- ・体調の良くない入所者の早期避難などの避難対応を検討する。

事例：各種警報への対応に関する保護者の理解促進

知的障害者の通所施設Bでは、各種警報への対応について保護者の理解を得るため、月1回の保護者会で確認するとともに、台風等の予報がでた場合は、前日までに各種警報への対応に関する書類を作成し、保護者に配布するようにしています。また、施設利用中に警報等が発表された場合には、電話またはメールにて保護者へ連絡するなど、情報伝達の体制を整えています。

各種警報に対する対応

- 8時前に警報解除された場合
⇒通常通り（給食あり）
- 8時～12時に警報解除された場合
⇒解除1時間後から開所（給食なし）
- 12時以降に警報解除された場合
⇒休業

連絡先〇〇〇

【選択編】

チェックリスト③ 避難準備 【資器材・備蓄品等の準備】

【訓練内容】: 利用者の配慮事項等に対応した資器材等の配置や設置等の効率化

訓練のポイント

- 水害時に使用可能な保管場所や状態にあるかを確認する。
- 土のうの作成や止水板の設置など、通常業務で行わない項目は、継続的な避難訓練の対象とし、短時間での対応が可能な体制構築を図る。

実施の有無	訓練項目	訓練目標 記載例を参考に、各施設で設定して下さい	担当者	結果
☐	資器材、備蓄品等の確保 ・車いす・担架、備蓄品等は日頃から確認出来る場所に配置する。 ・各居室に非常時持ち出し袋（お薬手帳、薬など）を配備する。 	(例) 利用者に必要な備蓄品・携行品の種類・量を迅速に確保する		
☐	資器材・備蓄品等の移動 ・場所をわかりやすい所に置き、避難の時短を図る。また、すぐ動かせるようにしておく。 	(例) 必要資器材を上層階に〇分で(〇名で)移動する (例) 備蓄品を避難先への搬送用に車に〇分で積み込む		
☐	土嚢や止水板の設置 	(例) 玄関に〇分で設置する		
☐	備蓄品(水・食料)の実食	(例) 災害時用の備蓄食料品の味の確認や食べ方を理解する		
☐	利用者の情報を適切に管理 ・1・2週間に1度はカルテを出力する。	(例) 停電時にも利用者の情報が確認できる		

【訓練時における課題や気づき】

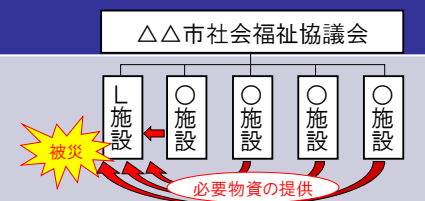
チェックリスト③ 避難準備 【資器材・備蓄品等の準備】

【ヒント集】

- ・資器材(車いす・担架など)、備蓄品等は日頃から確認出来る場所に配置する。
- ・各居室に非常時持ち出し袋(お薬手帳、必要な薬など)を配備する。
- ・薬の備蓄と処方薬情報の持ち出しファイルの準備をしている。
- ・避難先に備蓄品を置いてもらえるよう協議する。(下記事例参照)
- ・数年保管可能な水や食料の備蓄や屋上への飲料水用タンクを設置する。
- ・土のうと運搬用のカートを備蓄する。
- ・カセットコンロや発電機を確保する。発電機は定期的に試運転する。
- ・1・2週間に1度はカルテを出力する。
- ・トイレ、風呂など、管内放送が聞こえない場所がないか確認する。
- ・備蓄品を使用期限前におやつとして実食している。

事例：複数の施設間で備蓄品を共有

特別養護老人ホームCでは、施設の備蓄倉庫とは別に、避難場所にも備蓄品を備えています。また、「社会福祉施設災害支援ネットワーク」の体制を地域で構築しており、施設間で備蓄品を共有できるような協定を結んでいます。



チェックリスト④ 避難準備 【移動に向けた事前準備】

【訓練内容】: 移動手段の確実な準備・確保と、移動開始までを短縮化するための段取りの確認

訓練のポイント

- 日頃から、携行品の保管や避難用の資器材の設置場所等、災害時の避難準備時間の短縮化や対応の効率化に繋がる工夫を考える。

実施の有無	訓練項目	訓練目標 記載例を参考に、各施設で設定して下さい	担当者	結果
☐	避難誘導班の体制確認 ・利用者ごとの役割分担を確認する。	(例) 避難誘導班の体制と担当ごとの役割分担(様式12)を確認する		
☐	利用者の所在・状況確認 ・日常の利用者の状況チェックをより短時間で実施する	(例) 利用者の所在や状態、安否状況等を○分で(○名で)確認する		
☐	利用者の事前準備 ・着替え、車椅子への移動、早めの食事などを行う。 	(例) 利用者の着替えを○分で行う		
☐	施設内の移動手段の確認 ・各居室に避難経路を貼る。	(例) 車いすや担架等の資器材を確保する (例) エレベータの状況や機械室を確認する		
☐	施設外の移動手段の確認 ・避難車両の乗車割り当て表を作成する。 ・避難者の引き取りチェックリストを作成する。 ・保育園の応援(ボランティア)隊を確保する。 	(例) 避難移動用の自動車を必要台数確保する		
☐				

【訓練時における課題や気づき】

チェックリスト④ 避難準備 【移動に向けた事前準備】

【ヒント集】

- ・各部屋に車椅子や懐中電灯を配置する。
- ・車椅子などの場所をわかりやすい所に置き、避難にかかる時間の短縮を図る。
- ・各居室に避難経路を貼る。
- ・玄関に全入居者の提供薬剤や携行品のリュック等を設置する。
- ・移動用の車(園バス)を常に置いている。
- ・公用車をあえて車庫にしまわず玄関先に駐車する。
- ・避難車両の乗り込み用の乗車割り当て表を作成する。(事例紹介参照)
- ・ガソリンが半分になったら給油する。
- ・出口に近い場所で作業するようにする。
- ・避難者の引き取りチェックリストを作成する。
- ・保育園の応援(ボランティア)隊を確保する。

事例：施設利用者の乗車区分の整理による円滑かつ迅速な搬送

特別養護老人ホームEでは、施設利用者を避難場所まで車両で移送する際に「**対応別避難誘導方法一覧表(様式11)**」を作成しています。避難誘導時には、この一覧表にもとづき、施設利用者を「歩行可能」「座位可能」「座位不可」「帰宅」「入院」に区分し、人数を整理したうえで避難誘導要員と搬送車両の割り当てを行い、避難訓練を実施しています。

【選択編】

チェックリスト⑤ 非常体制【施設内の避難誘導】

【訓練内容】: 避難誘導班の責任者は、利用者の避難における配慮事項及び優先度を考慮し、避難誘導班担当者、他の従業員、支援者等への適切な指示を行う。

訓練のポイント

- 地震・火災等の訓練を参考に、施設利用者の移動時の配慮事項を確認する。
- 避難生活が長期化する可能性も念頭に、避難先の環境を確認する。
- 停電等により、施設内の環境も変わる可能性があることも配慮して訓練する。

実施の有無	訓練項目	訓練目標 記載例を参考に、各施設で設定して下さい	担当者	結果
☐	避難先の選択 ・施設内の避難スペースを迅速に確保できるようにする。	(例) 避難先(施設内の上層階か施設外か)を迅速に判断し、周知する		
☐	施設内における避難移動 (玄関まで/上層避難) ・1階から2階への避難訓練を実施する。 ・職員が利用者の代役となり、患者の負担がないように実施する。 ・夜間訓練を夜勤者1人で行い、深夜の避難計画を作成する。	(例) 施設内の移動を〇分内で完了する (例) エレベータを利用せずに階段を利用して上層階の避難場所に移動する		
☐	利用者の心身の健康管理 ・利用者ごとの配慮事項を確認する。	(例) 移動中や施設内の避難場所で、利用者の状態を確認する体制を確認する		
☐				

【訓練時における課題や気づき】

チェックリスト⑤ 非常体制【施設内の避難誘導】

【ヒント集】

- ・1階から2階への避難訓練を実施する。
- ・避難訓練時に避難に要する時間を計測する。
- ・避難訓練を通して、入居者の方にも避難方法を覚えていただく。
- ・引き渡し訓練を保護者と共に実施している。
- ・夜間の避難訓練を夜勤者1人で行い、深夜の避難計画を作成する。
- ・その日の係によって避難訓練の担当を決める。
- ・地域の避難場所となることで、地域の協力を得るようにする。
- ・訓練で、病院側が患者役をたて、患者の負担がないように実施する。
- ・消防署から避難訓練用VTRを借用し、「見る訓練」として実施する。

事例：法人施設内で連携した避難訓練を実施

特別養護老人ホームEでは、同じ法人施設を4つのブロックに分け、ブロックごとに連携した避難訓練を定期的に実施しています。

【選択編】

チェックリスト⑥ 非常体制【施設外への避難誘導】

【訓練内容】: 避難誘導班の責任者は、利用者の避難における配慮事項及び優先度を考慮し、避難誘導班担当者、他の従業員、支援者等への適切な指示を行う。

訓練のポイント

- 実際の移動には、利用者の負担も大きいことから、職員による代替対応や、平常時の散歩等、訓練による負担の軽減化に留意する。
- 一斉避難だけではなく、段階的な避難(グループ分け)など、効率的な避難対応を検討する。

実施の有無	訓練項目	訓練目標 記載例を参考に、各施設で設定して下さい	担当者	結果
☐	避難先の選択 ・避難先に事前連絡して訓練を実施する。 	(例) 責任者は施設外の避難先を決定し、周知する		
☐	移動経路・移動手段の決定 ・大雨時の状況を踏まえ、避難路・移動手段の事前確認を行う。 	(例) 状況を踏まえて移動経路と手段を判断し、周知する		
☐	車両への乗り込み訓練 	(例) 手配した車両に〇分で乗り込む (例) ピストン移送の乗り込み順番を確認する		
☐	リフト車両の操作訓練 	(例) 操作可能な従業員数を〇名とする		
☐	避難場所への避難移動 ・隣接しているグループ施設や他施設との避難訓練を実施する。 ・他地区の施設との相互受け入れに関する協議を行う。	(例) 施設外の避難先まで、〇分で移動する (例) 移動経路上の課題(危険要因等)等と対応を確認する		
☐	利用者の心身の健康管理 ・利用者ごとの配慮事項を確認する。 ・引き渡し訓練を保護者と共に実施する。 	(例) 移動中(車両内等)や避難先で、利用者の状態を確認する体制を確認する		
☐				

【訓練時における課題や気づき】

チェックリスト⑥ 非常体制【施設外への避難誘導】

【ヒント集】

- ・避難先に事前連絡して訓練を実施する。
- ・第3避難所まで避難経路を歩く避難訓練を行う。
- ・複数の避難所及び避難経路を設定したうえで、大雨時の水位や降雨状況を踏まえた選択判断の“あたり”を事前につける訓練を行う。
- ・到着した順に利用者を車に乗せて避難場所へ移動する訓練を実施する。
- ・隣接しているグループ施設や他施設との避難訓練を実施する。
- ・他地区の施設との相互受け入れに関する協議を行う。
- ・隣接する会社等と非常時の避難支援や避難の受け入れに関する協議を行う。
- ・地区の祭りに参加することなどにより、地域とのコミュニケーション強化と災害時の支援ネットワークの構築を図る。

事例：日常時から道順や移動時間を確認

知的障害者の通所施設Fでは、いざというときに施設利用者が落ち着いて行動できるように、避難経路を散歩コースに設定し、道順や避難場所を確認しています。また、実際に経路を歩くことで、横断が危険な交差点や交通量の多い道路などを把握し、対策を立てています。

さらに、定期的に避難場所に出向き、施設利用者を環境に慣れさせることで、避難時の抵抗感を低減させるようにしています。

【参考】地域との連携ヒント

◆自施設だけの対応力では不足する場合、日頃からの地域との連携が有効となります。

◆地域と連携している施設の取組を紹介しますので、参考にしてください。

■ 合同訓練

- ・ 地域の人と一緒に訓練に参加してもらっている。
- ・ 近隣施設同士で訓練を実施している。
- ・ 小学校や中学校と一緒に避難訓練を行っている

■ 他団体との連携

- ・ 地元消防団と連携した訓練を実施している
- ・ 隣接会社が非常時に避難を手伝う約束をしている
- ・ 自治会と災害協定を結んでいる
- ・ 近隣施設への避難訓練の実施（RC 2 階以上の建物）
- ・ 他事業所（同法人）との連携、情報交換、相談
- ・ 車での避難の際、バス会社への事前依頼
- ・ 近くの高台にあるコンビニの駐車場を避難先とし、トイレ、水、食料の提供についても依頼している

■ 地域での協力

- ・ 回覧板等で近隣の方と情報共有している
- ・ 地域（町内会）と応援協定を締結
- ・ 地域の方との連携マニュアル化
（夜間どこから入るか、など）

■ 地元住民との交流

- ・ 施設の状況を知ってもらうための広報をしている
- ・ 協力予定の住民との普段からのコミュニケーション
- ・ 焼肉パーティーで親睦を深めている。
- ・ 近隣の方にお茶会、コンサートの招待をしている
- ・ 町内会の総会、夏祭りに参加
- ・ オレンジカフェ（認知症カフェ）による情報共有

■ その他

- ・ 停電時に一人暮らしの方を施設に泊めた。
- ・ 警察の方や消防の方からの講習を受けている
- ・ H P による情報提供



【参考】地域との連携事例

(事例1) 地域で決める避難先	
場所	秋田県
概要	福祉施設が洪水時の避難確保計画を策定。避難先の検討に、教育機関や行政機関、関連企業を交え検討。約1km先の中学校を避難所として選定した。その他にも、自治会などと共に防災訓練や防災学習会を開催。  ▲平成28年11月に実施した避難訓練の様子
参考	国土強靱化 民間の取り組み事例集 (内閣官房,平成29年4月) https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/h29_minkan/

(事例2) 防災教室を通じた交流	
場所	徳島県
概要	福祉施設が主催し、地域の自主防災会や小学校を巻き込んだ防災教室を開催。積極的に防災組織や徳島県建築士会等の団体と連携して地震・津波、水害等の知識の普及を行っている。  ▲防災教室の様子(防災教室)
参考	国土強靱化 民間の取り組み事例集 (内閣官房,平成30年6月) https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/h30_minkan/

(事例3) 病院と地域が一体になった取組	
場所	東京都千代田区
概要	町会と病院で災害時相互応援協定を締結。毎年、病院や住民とのコミュニケーションの場として納涼大会を開催している。また、防災訓練も合同で実施している。
参考	第15回地域の防火防災功労賞事例集 (東京消防庁,平成31年1月) https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/life/bou_topic/koroshou/senkou-15jirei.pdf

(事例4) 地域ぐるみの「防災委員会」	
場所	東京都葛飾区
概要	福祉施設と町会との間に災害時相互応援協定を締結。合同の防災訓練後、自衛消防組織、町会、消防署、区が参加する「防災委員会」を開催し、訓練の反省や意見交換を実施。  訓練後の防災委員会
参考	東京防災隣組第三回認定団体活動事例集 (東京都,平成26年3月) https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/res/projects/default_project/page_001/001/375/3.pdf

(事例5) 認知症サポーターの養成	
場所	滋賀県犬上郡
概要	認知症サポーターの養成講座を、福祉施設のセンター長が主催し実施。地元では約120名が認知症サポーターになっている。そのため防災訓練では、グループホームの入居者と住民が一緒に避難を行っており、有事に備えている。
参考	第15回地域の防火防災功労賞事例集 (東京消防庁,平成31年1月) https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/life/bou_topic/koroshou/senkou-15jirei.pdf

(事例6) 避難の後につなげる	
場所	神奈川県横浜市の
概要	福祉施設の防災訓練を運営推進会議の日に実施することで、地元の人々も参加。地元の人と協力関係を築くことができ、主に避難者等々の入居者の見守りを依頼している。
参考	災害に強い高齢者住まいの防災訓練～地域と連携した取り組みを進めるために～ (株式会社防災行政総合研究所) https://www.yokohama-ri.co.jp/fukushi_bcp25/pdf/Bousai01.pdf

(事例7) 住民との支えあい	
場所	神奈川県横浜市の
概要	福祉施設の事業員が町内会を手伝っており、そこから地域とのつながりができている。施設の防災訓練には地元住民や消防団が参加し、福祉施設の概要や入口がどこかなどを知ってもらえる環境を作っている。
参考	災害に強い高齢者住まいの防災訓練～地域と連携した取り組みを進めるために～ https://www.yokohama-ri.co.jp/fukushi_bcp25/pdf/Bousai01.pdf

(事例8) 避難支援ボランティア	
場所	山口県柳井市の
概要	福祉施設の近隣の老人クラブで、入居者の避難支援を行うボランティアを結成。災害時の応援関係の構築や、防災訓練への参加などを行っている。 
参考	福祉施設等の災害対策取組事例集 (山口県健康福祉部厚生課,平成23年3月) https://www.kaign.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/file/1305/000922_13.pdf

(事例9) 地元高校生とのつながり	
場所	兵庫県尼崎市の
概要	医療関係のクラスがある高校と福祉施設が連携した例。高校生が看護用担架を使用して、居住者を上階へ避難させる訓練を行った。最後には全生徒が担架運搬訓練を成功させることができた。  【生徒同士で運搬を実施】
参考	兵庫県災害時要援護者支援取組事例集 (兵庫県,平成30年3月) https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk37/documents/zireisyuu.pdf